

ミッシングリンクの尻尾をつかむ？！

—ヒトは、トリは、どのように尾をなくしたのか？—

演者：東島沙弥佳 博士

京都大学大学院理学研究科 動物発生学研究室

突然ですが、もし自分に尻尾があったなら...と、考えたことはありませんか？

もしも尻尾が一本あれば、移動や仲間とのコミュニケーションがもっとスムーズになったかもしれません。あればきっと便利なはずなのに、残念ながら我々に尻尾はありません。どうしてでしょうか？

化石記録でも肝心な部分に空白があり（ミッシングリンク）、今なお、ヒトがなぜ、どのようにして尾を失くしたのかは全く解明されていません。

化石がない現状でできることと言えば、現生種の形態を精緻に観察して過去の推測に役立てることと、そういった形態が出来上がる過程を正確に記載して、進化の道筋を推測することです。

そこで私はこれまで、尾長が様々な現生霊長類（旧世界ザル）を用いて、尻尾の筋肉や骨格の形態が尾長に強い影響を受けること、それらが系統的差異も反映して多様に変異すること、を解明してきました。今回は、私がこれまで研究対象としてきた霊長類について簡単にご説明し、その後尾長と尾部筋骨格形態変異についてお話を致します。

現在は、そういった形態の変異がどのようにして出来上がるのか、を解明するため、発生生物学的アプローチにも取り組み始めました。ヒトと同じく、進化の過程で尾の極端な短縮が生じているトリをモデルとして用いながら、トリではどのような仕組みで尾が短縮するのかの解明を目指しています。こちらも、現在までの進捗状況について簡単にお話を致します。

日時: 3月17日(火)午後4時より

場所: 青葉山理学部生物棟 1階 大会議室

企画: 江川史朗 shiro@dc.tohoku.ac.jp

田村宏治 tam@m.tohoku.ac.jp